

令和元年度 教育事務点検評価報告書

南風原町教育委員会

目 次

議会への報告について	1
1. 教育事務点検評価審議会の会議の経過	2
2. 点検評価について	3
諮問文	4
答申書	6
はじめに	7
1. 教育委員会制度について	8
(1) 教育委員会の概要	
(2) 教育委員会の会議	
(3) 教育委員会会議以外の活動状況	
(4) 教育委員会事務局の組織及び現員配置状況	
(5) 教育財政	
2. 事務事業について	11
(1) 評価結果	
・教育総務課	
・学校教育課	
・生涯学習文化課	
おわりに	20

議会への報告について

地方教育行政の組織及び運営に関する法律第26条において、教育に関する事務の管理及び執行状況について点検及び評価を行い、その結果について議会に提出するとともに、広く公表することとされております。南風原町教育委員会では同法に規定する教育事務の点検評価を実施するにあたり、教育に関して学識経験を有する者で構成する南風原町教育事務点検評価審議会を設置しております。

南風原町教育委員会部課長会議においては、第五次南風原町総合計画の施策に属する事務事業を各所管課（3課）から3事業を抽出して9事業についての点検評価の内部評価を行いました。

令和2年11月25日、南風原町教育事務点検評価審議会会長に対し教育に関する事務の管理及び執行の状況の点検及び評価について（令和元年度事業）」の諮問を行いました。

そして審議会の審議を経て、令和3年2月17日に、南風原町教育事務点検評価審議会会長より答申を受けました。諮問事項に関しましては、評価だけでなく、それぞれの委員の立場からの提言もいただきました。

今回の評価にあたってのご提言につきましては、本町の教育行政の執行に活かしていく所存であります。

本町教育に関する事務の管理及び執行の状況の点検・評価につきまして諮問及び答申の内容をとりまとめて、報告書として議会に提出するものであります。

令和3年3月4日

南風原町教育委員会
教育長 新垣 吉紀

<p>地方教育行政の組織及び運営に関する法律 第26条 教育委員会は、毎年、その権限に属する事務（前条第1項の規定により教育長に委任された事務その他教育長の権限に属する事務（同条第4項の規定により事務局職員等に委任された事務を含む。）を含む。）の管理及び執行の状況について点検及び評価を行い、その結果に関する報告書を作成し、これを議会に提出するとともに、公表しなければならない。 2 教育委員会は、前項の点検及び評価を行うに当たっては、教育に関し学識経験を有する者の知見の活用を図るものとする。</p>

1. 南風原町教育事務点検評価審議会の会議の経過

第1回 南風原町教育事務点検評価審議会

日時：令和2年11月25日（水）午後1時30分～午後3時30分

場所：5階 委員会室1

委員出席者：委員3人中3人

説明出席：教育長、教育部長、教育総務課長、
学校教育課長、生涯学習文化課長、

- 日程：1. 委嘱状交付
2. 教育長あいさつ
3. 会長・副会長の選出
4. 会長あいさつ
5. 諮問 教育に関する事務の管理及び執行の状況の点検及び
評価について
6. 各事業（9事業）の説明と質疑

第2回 南風原町教育事務点検評価審議会

日時：令和2年12月23日（水）午後1時30分～午後3時30分

場所：4階 401会議室

委員出席者：委員3人中3人

説明出席：教育総務課長、学校教育課長、生涯学習文化課長、
各主管課班長・職員

- 日程：1. 第1回審議会の質疑事項の説明
2. 各事業（9事業）のヒアリング（各所管課）

第3回 南風原町教育事務点検評価審議会

日時：令和3年1月20日（水）午前10時00分～午後3時30分

場所：4階 401会議室

委員出席者：委員3人中3人

説明出席：教育総務課長、学校教育課長、生涯学習文化課長、
各主管課班長・職員

- 日程：1. 翔南幼稚園視察、北丘小学校視察、文化センター視察（午前）
2. 第1回、第2回での審議会の質疑事項の説明
3. 各事業（9事業）のヒアリング（各所管課）
4. 事務点検評価について
（各委員からの各事業の点検評価の確認）

第4回 南風原町教育事務点検評価審議会

日時：令和3年2月10日（水）午後1時00分～午後3時00分

場所：4階 401会議室

委員出席者：委員3人中3人

- 日程：1. 事務点検評価について
（各委員からの各事業の点検評価の確認、まとめ等）

答申書提出

日時：令和3年2月17日（水）午後14時30分

場所：4階 教育長室

教育委員会出席：教育部長、教育総務課長、指導主事、
生涯学習文化課長、教育総務課庶務班長

2. 点検評価について

(1) 点検評価対象年度
令和元年度

(2) 点検評価の内容
答申書のとおり

(3) 点検評価の方法

点検評価内容については、第五次南風原町総合計画の教育の施策に属する事務事業の中で、各所管課（3課）、3事業を抽出しての9事務事業となっています。これらの事務事業を点検評価するにあたり、事業ごとの点検評価シートを作成し、妥当性・効率性等の複眼的視点による評価を試みました。

さらに、教育委員会による内部評価に加え、点検評価審議会による外部評価を加えることで、評価の客観性を確保しました。なお、評価における価値基準及び総合評価基準については、次のとおりです。

① 評価基準

評価については、妥当性・効率性・有効性・今後の展開の4つの視点から次表のとおり点数を付しています。

点数	妥当性	効率性	有効性	今後の展開
4	教育委員会が関与する妥当性が非常に高い	投入コストに比べ活動量が非常に高い	成果が非常に高い	事業規模の拡大が望まれる
3	教育委員会が関与する妥当性が高い	投入コストに比べ活動量が高い	成果が高い	事業規模の維持が望まれる
2	教育委員会が関与する妥当性が低い	投入コストに比べ活動量が低い	成果が低い	事業規模の縮小が望まれる
1	教育委員会が関与する妥当性が非常に低い	投入コストに比べ活動量が非常に低い	成果が非常に低い	廃止または休止が望まれる

② 総合評価基準

総合評価については、妥当性、効率性、有効性、今後の展開の合計点数により次表のとおり評価が下されます。

評価	妥当性・効率性・有効性・今後の展開の合計点数の範囲
A	14点 ～ 16点
B	11点 ～ 13点
C	8点 ～ 10点
D	4点 ～ 7点

諮 問 文

南教総第677号
令和2年11月25日

南風原町教育事務点検評価審議会
会長 梶村光郎 様

南風原町教育委員会
教育長 新垣 吉紀

教育に関する事務の管理及び執行の状況の点検及び評価について（諮問）

教育に関する事務の管理及び執行の状況の点検及び評価について、南風原町教育事務点検評価審議会設置条例第2条の規定により諮問します。

諮問事項

教育に関する事務の管理及び執行の状況の点検及び評価について

諮問理由

地方教育行政の組織及び運営に関する法律第26条に基づき、教育委員会の教育に関する事務の管理及び執行の状況の点検及び評価を実施し、議会に提出するとともに、町民に公表するため。

令和2年度（令和元年度実施事業）
教育に関する事務の管理及び執行状況の点検及び評価対象事業

【教育部 教育総務課】

1. 教育委員会運営事業（定例教育委員会）
2. 南風原町幼稚園体育活動充実支援事業
3. 学校給食実施事業

【教育部 学校教育課】

1. 特別支援教育支援員（ヘルパー）配置事業
2. 幼稚園運営事業
3. 教育相談事業

【教育部 生涯学習文化課】

1. 放課後子ども教室推進事業
2. 県外派遣事業
3. 南風原町子ども平和学習交流事業

答 申 書

教育に関する事務の管理及び執行の状況の点検及び評価について

令和3年2月17日

南風原町教育事務点検評価審議会

はじめに

南風原町教育委員会は、平成20年度4月1日から施行された地方教育行政の組織及び運営に関する法律第26条の改正により、教育に関し学識経験を有する者の知見を活用するための付属機関として、南風原町教育事務点検評価審議会を設置した。この度の事務事業点検評価は、令和2年11月25日に南風原町教育委員会教育長から「教育に関する事務の管理及び執行の状況の点検及び評価について」の諮問を受けて実施したものである。

点検及び評価を実施するにあたって、諮問された事務事業に関する資料提供を受け、事務担当課から事業の概要や状況について説明及び報告をしてもらった。その上で、不明な点について、追加の資料の提出や説明をしてもらった。また、幼稚園や小学校等への視察も実施した。

点検評価は、次のとおりである。

事務事業について

9事業について資料提供を受け、ヒアリングや視察等を行い、慎重に審議を行った。各課の事業とも町民を主体とした教育、健康増進、文化を高める事業として評価できるものであった。今後も、南風原町がより発展するよう、きめ細やかに事業の取り組みを進めていくよう期待する。

南風原町教育事務点検評価審議会

会 長 梶 村 光 郎

副会長 川 口 正 一

委 員 仲村渠 苗 子

1. 教育委員会制度について

(1) 教育委員会の概要【令和元年度】

教育委員会は教育長及び四人の委員をもって組織する合議制の執行機関です。教育長及び委員は町議会の同意を得て、町長が任命します。任期は教育長3年、委員4年で、教育行政の安定を図るため町立小学校の校区毎に選任されます。

教育長は、教育委員会の指揮監督の下に教育委員会の権限に属するすべての事務をつかさどり、事務局の事務を統括し所属職員を指揮監督します。

教育委員（令和元年度）

役 職	氏 名	任 期	校 区
委員（教育長）	新垣吉紀	自：平成30年6月1日 至：令和2年3月31日	—————
教育長職務代理	諸見里元	自：平成29年4月1日 至：令和3年3月31日	南風原小学校
委員	平田 峯子	自：平成31年4月1日 至：令和5年3月31日	翔南小学校
委員	大城 雅史	自：平成28年4月1日 至：令和2年3月31日	津嘉山小学校
委員	柴山睦子	自：平成30年6月1日 至：令和4年5月31日	北丘小学校

(2) 教育委員会の会議

令和元年は、定例会12回、臨時会3回会議を開催し、49件の議案を審議しました。そして教育長諸般の報告が12回、報告17件については議案に準ずる案件として議論を行いました。

定例教育委員会へは、事務局の部長、課長、指導主事が出席し、議案と報告案件の説明、質疑に対する回答がありました。

平成24年度より社会教育委員と教育委員会との連絡会を実施しており各々の役割や意見交換等を行い相互理解に努めました。

平成26年の地方教育行政の組織及び運営に関する法律の一部を改正する法律に基づき、町長との総合教育会議で平成27年度は「南風原町教育大綱」、平成28年度は「第二次南風原町教育大綱」について協議・調整を行いました。また、教育委員会の当初予算に関する意見書を提出して主要事業について意思の疎通を図りました。

(3) 教育委員会会議以外の活動状況

教育委員が、職務上出席した研修会・行事等は、以下のとおりです。

- ・ 沖縄県市町村教育委員会連合会 1回
- ・ 島尻市町村教育委員会協議会 2回
- ・ 沖縄県市町村教育委員・教育長研修会 1回
- ・ 幼稚園・学校訪問（学力向上実践発表会など含む）5回
- ・ 幼稚園・学校行事 10回
- ・ 総合教育会議（R1） 1回
- ・ その他の行事等 7回

(4) 教育委員会事務局の組織及び現員配置状況 (令和元年4月1日現在)

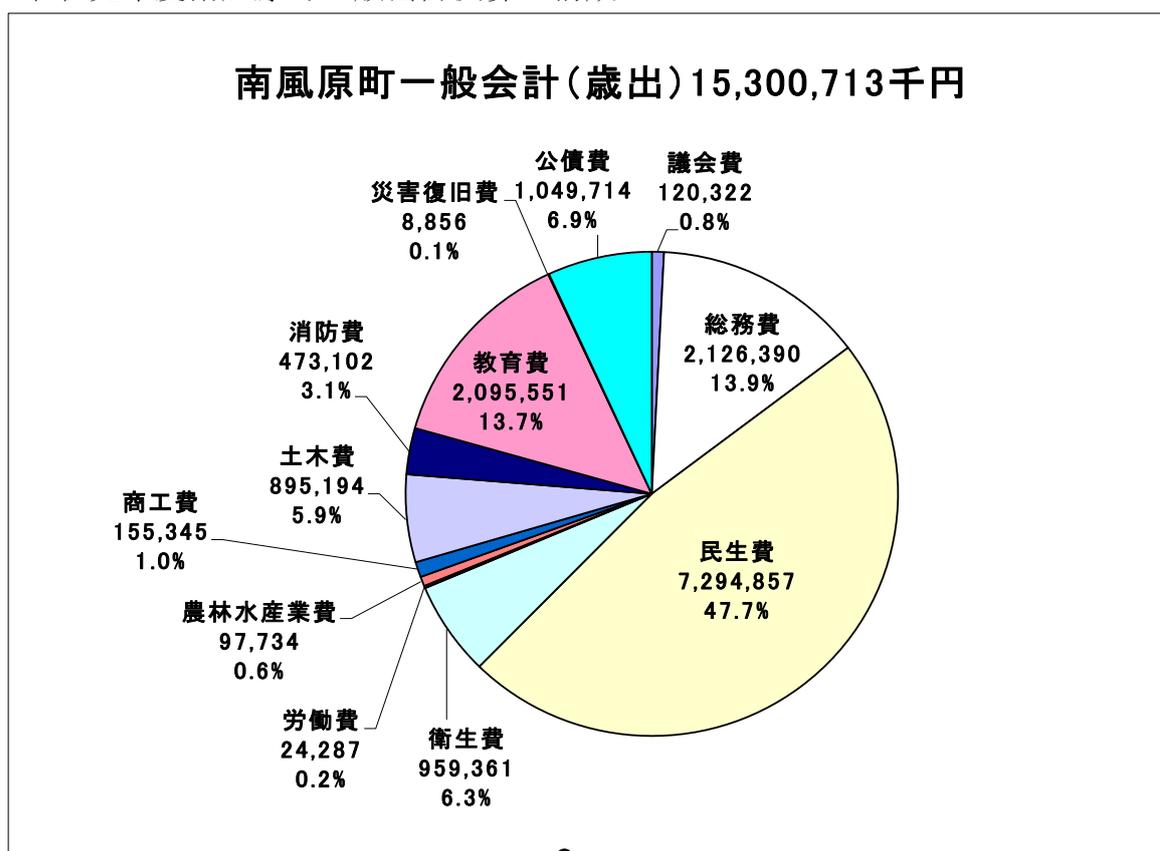
組		織	人員(人)	備 考
教育部 計 68 人	部長		1	
	教育総務課 計 16 人	課長	1	
		庶務班	1	
		保健体育班	2	
		学校給食班	1 2	
学校教育課 計 9 人	課長	1		
	指導主事	1		
	学校教育班	4		
	学務班	3		
生涯学習文化課 計 9 人	課長	1	文化センター館長及び町立 図書館館長を兼務	
	生涯学習班	3		
	図書館司書	1		
	文化班	2		
	学芸班	2		
教育機関 計 33 人	町立中央公民館	1	館長(嘱託)	
	〃	1	社会教育指導員(嘱託)	
	町立図書館	3	図書館司書(嘱託)	
	幼稚園(4園)	2 2	園長(嘱託)・教頭・教諭	
	小学校(4校)	4	図書館司書	
	中学校(2校)	2	図書館司書	

(5) 教育財政

令和元年度の南風原町の一般会計歳出決算は、15,300,713千円で、前年度の決算と比べて839,494千円(5.8%)の増となっています。

そのうち教育予算は、2,095,551千円で前年度決算と比べると251,493千円(13.6%)の増で、一般会計に占める比率は、13.7%となっています。なお本町の一般会計歳出決算の構成、教育費の年度別決算額推移は、次のとおりとなっています。

令和元年度南風原町一般会計決算の構成



令和元年度教育費（課毎）財源別一覧表

単位：円

項目	教育総務課	学校教育課	生涯学習文化課	合計
負担金	0	1,056,200	0	1,056,200
使用料	16,296,813	22,358,040	13,200,680	51,855,533
国庫補助金	0	6,516,000	0	6,516,000
県支出金	0	101,789,000	4,972,000	106,761,000
寄付金	520,000	0	0	520,000
給食費	222,249,020	0	0	222,249,020
雑入	2,791,153	69,903	74,043,381	76,904,437
地方債	0	386,800,000	400,000	387,200,000
合計	241,856,986	518,589,143	92,616,061	853,062,190
その他計	241,856,986	23,484,143	87,244,061	352,585,190

※合計＝上記項目の全ての合計 その他計＝負担金＋使用料＋寄付金＋給食費＋雑入＋延滞金

※沖縄振興特別推進交付金を除く

令和元年度教育費決算額の財源別一覧表

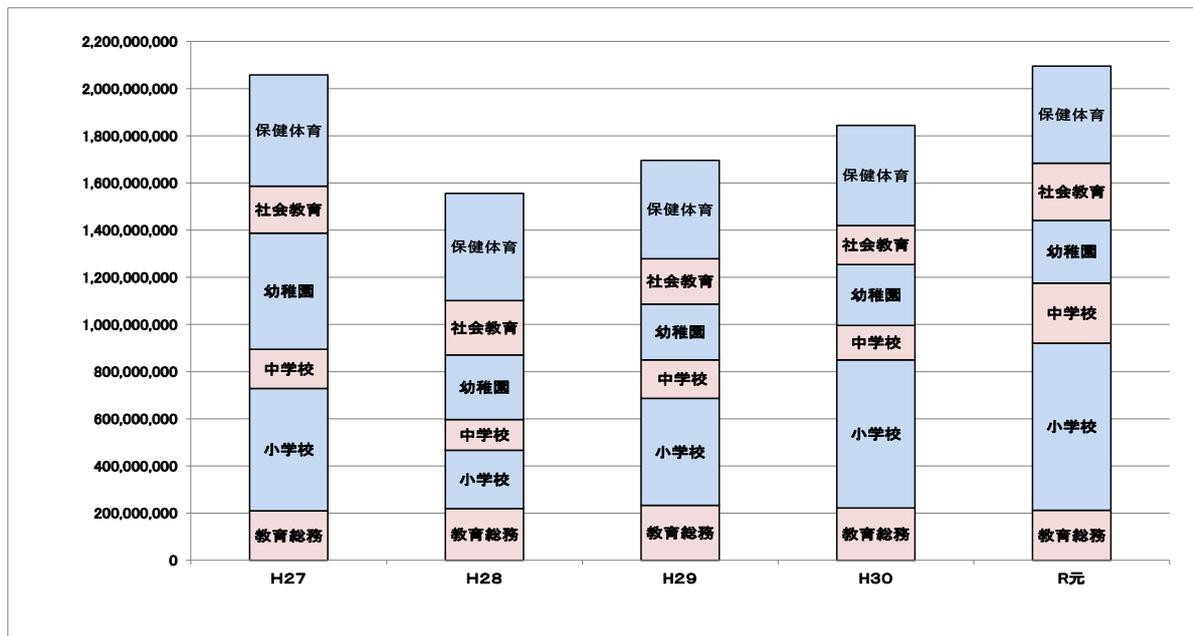
区分	決算額	比率
一般財源	1,242,488,839	59.3%
国庫支出金	6,516,000	0.3%
県支出金	106,761,000	5.1%
地方債	387,200,000	18.4%
その他	352,585,190	16.9%
合計	2,095,551,029	100.0%

教育費の年度別項別分類（平成27年度～令和元年度）

単位：円

款	項	H27	H28	H29	H30	R元
教育費	教育総務	210,043,397	219,491,519	232,873,569	221,798,546	211,910,099
	小学校	518,406,724	246,823,806	454,003,164	627,995,935	709,202,215
	中学校	166,569,242	130,327,754	163,004,365	145,995,831	254,552,033
	幼稚園	492,606,130	274,241,969	236,646,148	258,096,408	265,761,120
	社会教育	198,655,115	230,562,042	192,577,936	165,694,536	242,392,755
	保健体育	471,493,066	454,631,656	416,763,641	424,476,306	411,732,807
合計		2,057,773,674	1,556,078,746	1,695,868,823	1,844,057,562	2,095,551,029

教育費年度別決算額推移（平成27年度～令和元年度）



2 事務事業について

(1) 評価結果

教育委員会が行った内部評価及び南風原町教育事務点検評価委員会が行った外部評価の結果は次のとおりである。

第五次南風原町総合計画

〈大分類〉○きらきらと輝く人が育つまち

〈中分類〉○全般

〈小分類〉○全般

事業名 (担当課)	事業概要	評価区分	評価詳細					説明等
			妥当性	効率性	有効性	今後の展開	総合評価	
教育総務課	教育委員会 運営事業 (定例教育 委員会)	内部評価	4	4	4	4	A	<p>毎月1回定例会を開催し、積極的に意見交換及び審議し、成果を得ることができました。また、急を要する案件については臨時会を開催しました。</p> <p>社会教育委員との意見交換会では、沖縄県社会教育研究大会で発表した「地域づくりにおける社会教育委員の役割」についての報告や社会教育委員の活動について意見交換を行いました。</p> <p>県教育委員会連合会、島尻地区市町村教育委員会協議会主催の研修会では、教育に関する知識や見聞を深め、資質の向上が図られました。各地区の教育委員とも研修会や交流会等で教育行政に関する情報交換を行いました。</p> <p>総合教育会議においても首長への委員会の要望等を示すことができました。</p>
		外部評価	4	4	4	4	A	<p>令和元年度においては、教育委員会の定例会が12回、臨時会が3回開催され、49件の議案が審議された。また、それ以外に、教育長諸般の報告が12回、報告が17件についても議案に準ずる形で審議されている。委員の出席もよく、責任を果たしている。教育委員会会議以外の活動として、幼稚園や小中学校への訪問(行事等への参加)、各種の研修会への参加、総合教育会議への参加があった。研修会へ参加して見識を高めつつ、園や小中学校関係者、地域住民との交流も深めながら、地域の子どもたちや学校等の実情の把握に努めている。そのような努力もあり、町の教育行政が円滑に進められているように思われる。</p>

第五次南風原町総合計画

〈大分類〉〇きらきらと輝く人が育つまち

〈中分類〉〇個性を伸ばし、豊かな心と健やかな体を地域と育む、学校教育

〈小分類〉〇子どもたちの心身の健康づくりと安心して学ぶ環境づくり

事業名 (担当課)	事業概要	評価区分					評価詳細	
		妥当性	効率性	有効性	今後の展開	総合評価	説明等	
教育総務課	南風原町幼稚園体育活動充実支援事業	内部評価	4	4	4	4	A	<p>5才児において、逆上がりは365人中142人が習得し、跳び箱3段は365人中275人が習得できました。</p> <p>文部科学省の幼児期運動指針では、幼児期からの運動習慣をとおして体力をつけ、運動機能の基盤を整えることで、幼児期に必要な多様な動きの獲得や体力・運動能力の基礎を培うとともに様々な活動への意欲や社会性、創造性を育むことをができました。また、模倣遊びやバールン遊びで楽しく体を動かすことを学び、平均台・鉄棒・跳び箱運動で運動能力の向上にを図ることができました。</p> <p>将来の体力向上につなげていくために、この時期に基本的な動きを総合的に身につけていくことを目指し、今後も幼稚園の体育指導を継続的に実施していきたいです。</p>
		外部評価	4	4	4	4	A	<p>本事業は、町内幼稚園児に対して専門的な知識を持つ講師による体育指導を通して、園児の運動能力を向上させる取り組みである。</p> <p>幼児期から運動に親しみ、運動の楽しさを実感させ、運動習慣が身に付くようになると運動能力の基礎を培うことができると考える。その習慣が継続されれば小学校でも運動能力の向上につながるものと考え。</p> <p>本事業に対する幼児の満足感が高く、保護者からのアンケート結果も好評である。体育遊びが好きと回答した園児が96%、子どもの運動能力が上がったと実感した保護者が93%、本事業は良い取り組みだと99%の保護者が回答している。</p> <p>体育遊びでは、逆上がりや跳び箱・マット運動など器械運動にも取り組み、その技を習得した幼児も多い。走・跳の運動遊びや機器・器具を使つての運動遊びなど多様な運動を経験させることは大切である。</p> <p>実際に翔南幼稚園の活動場を参観した。子どもたちは楽しそうにいろいろな運動に親しんでいた。幼稚園の先生方も子どもたちと一緒に運動をしながら講師のサポートに当たっていた。講師の活動の進め方は、幼稚園の先生方にも参考になると思う。外部講師の活用によさである。</p> <p>本事業は、4歳児は月1回、5歳児は月3回45分間の体育活動(各園4歳児・計9回、5歳児・計27回)である。毎時間の活動内容・展開案もつくられており、充実した体育遊びが行われていると考える。</p> <p>本事業を継続しながら、子どもたちには、誰とでも仲良く運動をしたり、健康・安全に留意したりして運動することの大切さも伝えていきたい。放課後や休日に、進んで運動に親しむ子どもたちに育ってほしいと考える。</p>

第五次南風原町総合計画

〈大分類〉〇きらきらと輝く人が育つまち

〈中分類〉〇個性を伸ばし、豊かな心と健やかな体を地域と育む、学校教育

〈小分類〉〇子どもたちの心身の健康づくりと安心して学ぶ環境づくり

事業名 (担当課)	事業概要	評価詳細					説明等	
		評価区分	妥当性	効率性	有効性	今後の展開		総合評価
教育総務課	学校給食実施事業	内部評価	4	4	4	4	A	令和元年度は新型コロナウイルス感染症拡大に伴い臨時休業になり、200回の給食提供計画が191回実施になったが、安全安心な給食の提供や町内産、県内産の野菜を献立に取り入れ地産地消に取り組みました。また学校給食を活用した食育授業、幼稚園児及び保護者への講話を実施しました。 安心安全な学校給食を提供するために、給食費の改定に取り組みました。
		外部評価	4	4	4	4	A	令和元年度は、新型コロナウイルス感染症拡大防止に伴い、100%事業運営を達成することが出来なかった。しかし、南風原町の給食事業は、児童・生徒及び幼稚園児において、安心安全な学校給食を提供している。 一般財源からの補填を22年余りも据え置きしてきた給食費も消費税の増額や物価の上昇などで厳しい面もあり、おいしい給食、安全な給食を維持するためには、やむを得ないという現状から給食費値上げにいたっている。 保護者の理解を求め、質も落とさずに献立の工夫や栄養バランス、アレルギー対策などきめ細やかな作業が日々行われていて、適切な事業運営がなされている。 安全な給食を提供するため、専門業者に委託して定期的な検査を実施し、衛生管理を徹底し、設備等の安全管理が図られている。 一方、建物の老朽化に伴い、3町1市(南風原町、与那原町、八重瀬町、糸満市)の合同施設(センター)の案件が上がってきているようだが、それには、いくつかのコストなどのメリットもあるようだが、子どもたちの立場に立って慎重に審議し検討してもらいたいものである。 学校給食は、先生や友達と一緒に同じ物を食べるからこそ、共通の思い出となり、大人になっても給食の話題で盛り上がる。いつまでも心に残る給食を作っていてほしい。 家庭でも昔と今の給食について話題にし、楽しい食事の場になると思う。児童生徒に夢と希望を与える給食を作り続けていってほしいと思います。

第五次南風原町総合計画

〈大分類〉〇きらきらと輝く人が育つまち

〈中分類〉〇個性を伸ばし、豊かな心と健やかな体を地域と育む、学校教育

〈小分類〉〇子どもたちの心身の健康づくりと安心して学ぶ環境づくり

事業名 (担当課)	事業概要	評価詳細					説明等	
		評価区分	妥当性	効率性	有効性	今後の展開		総合評価
学校教育課	特別支援教育支援員(ヘルパー)配置事業	内部評価	4	3	4	4	A	<p>町内の全幼稚園、小中学校に特別支援教育支援員を配置することで幼児・児童・生徒が安全かつ安心して学校生活を送ることができました。配置計画人数47名に対し、47名配置することができました。年間をとおして概ね配置することができ、年々特別な支援を要する幼児・児童・生徒の多様なケースへの対応を行うことができました。また年数回研修会を開催し、特別支援教育支援員の資質向上を図りました。</p>
		外部評価	4	4	4	4	A	<p>本事業は、町内幼稚園・小・中学校の特別な支援を要する幼児・児童・生徒に対し、安全で楽しい学校生活が送られるよう特別教育支援員を配置し、学校教育を支援する取り組みである。</p> <p>支援員の配置は、①通常学級に在籍する学習障がい(LD)、注意欠陥・多動性障がい(ADHD)、高機能自閉症などの発達障がい者で支援を要する場合、②原則として通常学級に在籍する幼児・児童・生徒で、落ち着きがない、言動が荒い、過剰に一对一の関わりを求めたがる、授業中に立ち歩く、又は教室から飛び出すなど学校生活に著しく支障がある場合、③突発的な事故や病気などの後遺症のため、安全面や生活面で支援を要する場合、④複数の在籍者がいる自閉症・情緒障がい特別支援学級で、安全面や生活面で支援を要する場合、等である。</p> <p>各学校・幼稚園から教育委員会へ特別教育支援員配置申請書が出され、教育委員会がその内容を審査し、支援員についての承認・不承認を決定する仕組みとなっている。今年度は、小学校に23名、中学校に5名、幼稚園に19名が配置された。</p> <p>支援員の対応満足度調査「①言葉かけの仕方、②授業中の対応、③休み時間の対応、④保護者との連携、⑤総合的満足度、各観点を、大満足・満足・まあ満足・あまり満足でない・不満足で回答」を対象児童の保護者に行った結果、どの観点も「大満足」「満足」の割合が高く、満足度87.5%であった。「あまり満足でない」と回答した保護者もあったので、その回答理由を共有して今後の改善につなげるとよい。また、年4回実施している特別教育支援員研修会のさらなる内容の充実を図っていきたい。</p> <p>北丘小学校を実際に訪ね、支援員の活動場面の参観と校長先生のお話を伺った。支援員は、個々の児童の特性に応じた対応を行っていた。校長先生からは、支援員配置のおかげで、児童の成長に大きく寄与しており、4月当初の飛び出しのあった児童の改善も図られているとのことであった。</p> <p>各学校の教育計画に示されている「特別支援教育」には、支援を要する児童のレベルを1から4に設定する等、個々に応じた対応を行っている。児童一人一人の学びの実現、安心・安全な学校生活が送られるように、きめ細かな計画がなされている。</p> <p>本事業の予算(国からの補助)が令和3年度で切れるため、その後の予算確保が大きな課題であると考え、各学校・幼稚園からのニーズの高い特別教育支援員の配置継続を是非ともお願いしたい。</p>

第五次南風原町総合計画

〈大分類〉〇きらきらと輝く人が育つまち

〈中分類〉〇個性を伸ばし、豊かな心と健やかな体を地域と育む、学校教育

〈小分類〉〇豊かな心と健やかな体を育む学習内容の充実

事業名 (担当課)	事業概要	評価区分	評価詳細					説明等
			妥当性	効率性	有効性	今後の展開	総合評価	
学校教育課	幼稚園運営事業	内部評価	4	3	4	3	A	「幼児の自発的な活動としての遊びを生み出すために必要な環境を整え、一人一人の資質・能力を育む」をテーマに4園研究を行い教職員の質向上を図ったり、規則改正によりクラス定員を見直すなど、より園児へきめ細やかな教育・保育ができるよう取組ました。また、園児がスムーズに入学し継続した学びを受けられるよう保幼小連携の取組を行いました。効率的な予算執行に努め、快適な環境のもとでその心身の発達を助長することができました。
		外部評価	4	4	4	3	A	平成25年度に専任園長制度を取り入れ7年が経過、平成28年度には、4歳児受け入れと幼稚園教育も時代のニーズに合わせて取り組んでいる。 完全給食、預かり保育、4歳児を含めて2ヶ年保育等とあらゆる面で町内4園が足並みをそろえて幼稚園課程の教育に力をいれている。職員研修、園長会など四園研修も年4回も行き、幼稚園教育の素晴らしさと教職員の資質向上にもつながっている。 しかしながら、就園率から見ると4園の平均からして4歳児は、68.1%、5歳児は93.8%となっているのが、今後の展開からして保幼小連携も考えていくべきではないかと思う。

第五次南風原町総合計画

〈大分類〉〇きらきらと輝く人が育つまち

〈中分類〉〇個性を伸ばし、豊かな心と健やかな体を地域と育む、学校教育

〈小分類〉〇子どもたちの心身の健康づくりと安心して学ぶ環境づくり

事業名 (担当課)	事業概要	評価詳細					説明等	
		評価区分	妥当性	効率性	有効性	今後の展開		総合評価
学校教育課	教育相談事業	内部評価	4	4	4	4	A	不登校児童生徒が増加傾向ある情勢において、学校だけの対応には限界があり、教育委員会も連携し取組みました。R1年度は不登校児童生徒数が増加したものの、教育相談活動等により学校に登校できるようになった児童生徒が26人おり、一定の成果が見られました。不登校要因が複雑化、多様化するなか、心の教室相談員で3,524件の相談を受けるなど、不登校対策に取り組むことができました。
		外部評価	4	4	3	4	A	この事業は、子どもたちの心身の健康づくりと安心して学ぶ環境づくりを行うために、11人の相談員等を配置し、主に不登校の子どもたちを対象にして、様々な角度から彼らが登校できるようにサポートするものである。このようなサポートをする上で、平成28年度から青少年教育相談委員(1名)、特別支援教育相談委員(1名)、自立支援教室支援員(2名)、適応指導教室学習支援員(2名)、心の教室相談員(5名)が配置されている。平成30年度から、相談実績報告書が作成され、令和元年においても引き継がれている。このことは、子ども達の心身や学びの実態を可視化するものであり、対応策が必要な場合役立つものと考えられる。ちなみに、令和元年度の場合、相談件数3,524。相談者の内訳は児童生徒2,387人、保護者907人、教職員2,847人である。この数字からは、児童生徒以外に、保護者や教職員からの相談件数も多い。これを見ると、保護者や教職員だけで問題を解決するのが難しい状況にあることが窺われる。このような専門家も交えての取組があり、26人の児童生徒に登校できるようになっている。このことは、一つの成果といえるが、相談件数の多さから見るとまだ不十分である。この事実を踏まえれば、予算確保の問題があるが、今後も教育相談員等の配置はもちろん、増員の問題も検討される必要があるように思われる。

第五次南風原町総合計画

〈大分類〉〇きらきらと輝く人が育つまち

〈中分類〉〇地域に学び、地域を愛する人を育む、ふるさと教育

〈小分類〉〇学び・体験・交流の場や機会の充実

事業名 (担当課)	事業概要	評価区分	評価詳細					説明等
			妥当性	効率性	有効性	今後の展開	総合評価	
生涯学習文化課	放課後子ども教室推進事業	内部評価	4	4	4	3	A	見守りスタッフとして教育活動サポーターを45名委嘱しているが、その内地域の方が16名子ども達と交流を行っている。特に津嘉山小はスタッフ11人中5人が地域住民で地域の皆さんに支えられている。令和元年度からはプログラミング学習ソフトを活用し、今後導入されるプログラミング教育に興味を持ってもらうよう取り組んだ。 今後も様々な体験を通し、子ども達にとってよりよい居場所作りを進めていきたい。
		外部評価	4	4	4	3	A	本事業は、町内小学校1・2年生に対して、小学校の余裕教室等を活用し、放課後の安全・安心な活動拠点を設け、地域の方々との学習や遊び等を通して交流を行う取り組みである。 本事業には、放課後子ども教室コーディネーター(1名)が配置され、4小学校の「放課後子ども教室」の円滑な活動が行われるよう調整等を行っている。各学校には、教育活動サポーターとして、保護者や地域の方々がスタッフとして教室を支えている。地域住民等の参画による学習・体験活動は、子どもたちの社会性を育み豊かな人間性の涵養にもなるものと期待できる。 本年度の実績をみると、5月から2月(3小学校週3回、1小学校週2回)で、参加児童数の延べ総数が6,677名であった。予定していた放課後子ども教室が毎回実施されていた。 活動内容は、学習支援や遊び、スポーツ・文化活動など、多様な体験活動が実施され、本年度はプログラミング学習も行われている。学校の教育活動外の時間における子どもたちの多様な側面を、時折情報として学校側へ知らせるのもいいのではないかと考える。それとともに、教室(活動場所)の使い方等で気になる点はないかを確認するといったと思う。 本事業の充実を図るためには、スタッフの安定した人数の確保、多様な活動を組み入れた年間計画が重要だと考える。また、低学年の児童への接し方、子どもたちの活動する際の規律やマナー、ソーシャルディスタンス等にも気を配りたい。

第五次南風原町総合計画

〈大分類〉〇きらきらと輝く人が育つまち

〈中分類〉〇地域に学び、地域を愛する人を育む、ふるさと教育

〈小分類〉〇スポーツ・レクリエーションの振興

事業名 (担当課)	事業概要	評価詳細						
		評価区分	妥当性	効率性	有効性	今後の展開	総合評価	説明等
生涯学習文化課	県外等派遣事業	内部評価	4	4	4	3	A	<p>青少年の体力や技術の向上だけでなく、精神面での成長も期待でき。島しょ県である本県(本町)からの派遣の際、経済的負担の軽減に繋げる点からも、事業の妥当性を感じており、申請者に対する活動指標及び成果指標も高水準に達していることから、効率性及び有効性の高い事業であると認識しております。今後の展開につきましては引き続き調査、研究を怠らず進めて参ります。</p>
		外部評価	4	4	4	4	A	<p>この事業は、町内に在住する小中学生及び地域青年会等が運動競技及び文化活動参加のための県外派遣費として行われている事業である。</p> <p>派遣された児童、生徒及び青年会等は、自信と誇りを持ち一段と成長して、次に続く青少年に目標を与えたりして本事業の意義は大きい。</p> <p>昨年は新型コロナウイルス感染症拡大防止による派遣中止が相次ぎ申請件数が、34件にとどまっている。しかし、過去5年間の数値から見ても100%に近い実績を達成し、青少年の人材育成及び向上心が育まれている。</p> <p>申請者に対する事業の在り方の説明などアンケートを取るなどして学校やクラブチームなど広報活動も充実させ、保護者の意見や派遣費のありがたさなど広く町民に知れ渡っているように思う。</p>

第五次南風原町総合計画

〈大分類〉〇きらきらと輝く人が育つまち

〈中分類〉〇地域に学び地域を愛する人を育む、ふるさと教育

〈小分類〉〇平和学習及び歴史学習の推進

事業名 (担当課)	事業概要	評価区分	評価詳細					説明等
			妥当性	効率性	有効性	今後の展開	総合評価	
生涯学習文化課	南風原町子ども平和学習交流事業	内部評価	4	4	4	3	A	町内各小学校6年生を対象に、「平和」「戦争」「人権」「差別」をテーマにしたこの事業は、歴史上のことでも身近な生活の中にある平和や戦争に気づかせることに力を入れている。他地域の歴史の中にある戦争の実態や平和への取り組み、気づきにくい差別や人権についてさまざまな事例を取り上げ、考える力を身につけ、仲間や、まわりの人たちの意見に耳を傾けながら、自分の意見をまとめられる総合的な洞察力を習得するとともに、交流や諸施設の研修を重ねて、平和についての学習を深める機会の創設と成っている。
		外部評価	4	4	4	4	A	南風原町子ども平和学習交流事業は、町内4小学校の6年生を対象に、平和・人権教育の一環として、県内外の平和や戦争に関する施設などで研修を行うものであり、研修に参加した子どもたちは、事前学習も行い、この研修での学びをより充実したものにする予定であった。また、その際は研修の報告もあり、そのことを通じて各小学校の他の子ども達に対しても、平和や人権の大切さを訴えることが期待されていた。その意味で、この事業は妥当であり有効である。しかし、コロナ禍にあり、有意義な計画の変更も余儀なくされ、9月20日に広島県福山市のヒロコースト記念館とリモートでつなげ、館長の講話と館内の案内、意見交換を行う形になった。また、徳島県牟岐中とのリモート授業で「沖縄戦から見える平和への思い」と題して南風原と沖縄戦の実相を紹介した。この授業は牟岐中(むぎちゅう)からの要請で実現したものであるが、町の平和学習に対する取り組みの成果を反映したものである。コロナ禍であっても創意工夫で平和学習交流事業を実施したことは、効率性や今後の展開にもつながる面があり、評価できる。

おわりに

本年度も、昨年度と同様、教育に関する事務の管理及び執行状況の点検、評価に関して、諮問された九つの事業の概要や状況について、関係部署の方々から説明を受け、さらに北丘小学校や翔南幼稚園、文化センターを視察するなどして、三名で慎重に審議した。以下、評価した点や課題、期待などについて、教育総務課関係の事業、学校教育課関係の事業、生涯学習文化課関係の事業の順に述べることにする。

1. 教育総務課関係の事業について

教育委員会運営事業については、毎月定例会が開かれ、さらに3回の臨時会も開かれて、町の教育行政に支障がないように運営されていた。また教育委員の定例会への出席もよく、この点も評価できる。今後もこのように継続していただきたい。また、子どもをめぐる問題は、コロナ、不登校、部活の指導のあり方、差別等、枚挙に暇がないほどであり、それらに対処せざるを得ない状況がある。このような状況が想定されるので、教育委員の方々は教育に関する見識をより高めつつ、危機意識をこれまで以上に持ち、対応していただきたい。

幼稚園体育活動充実支援事業については、幼児の満足感が高く、保護者からのアンケートの結果もよい。視察においても子どもたちの反応が良いし、遊びや運動にも工夫が見られた。コロナ禍で他者と関わったり、遊びや運動が抑制されたりする状況も踏まえると、フィジカルディスタンスを取りつつ仲間と交流しながら運動能力を高める本事業の意義は大きいと思われる。

学校給食実施事業は、保護者や地域住民の皆さんの支持もあり22年間値上げもせず、行政の奮闘もあり、安心安全な学校給食を提供してきた。そのことは、高く評価されてよい。しかし、消費税の値上げ等があり、給食費の値上げを余儀なくされた。そのことは残念ではあるが、安心安全でしかもおいしい給食を提供するという点では、事業方針は一貫している。他町村との連携等も検討されているとのことであるが、安心安全でおいしい給食という原則が貫かれるような対応を期待したい。

2. 学校教育課関係事業について

特別支援教育支援員配置事業については、発達障がいを抱える子どもたちの特別な教育的なニーズに応えようとしている幼小中の教育機関の教育的な取組をサポートするために支援員（ヘルパー）を、各教育機関からの申請を受けて配置するというものである。令和元年度においては、幼稚園19名、小学校23名、中学校5名が配置されている。視察した北丘小学校の事例から言えば、支援員は個々の子どもの特性に対応している。また、支援員がいてくれることで、教室からの「飛び出し」にも対応できるようになっているとのことである。特別支援教育全体に関して言えば、ユニバーサルデザイン化した授業の創造など課題は多いが、子ども一人ひとりの学びが成立するよう、教室が安心安全で心地よい空

間となるようにしている、この事業の意義は大きいと思われる。国からの予算が切れても、継続的にこの事業が進められるよう配慮してほしい。

幼稚園運営事業については、専任園長制度の導入（平成 25 年度）、四歳児受け入れ（平成 28 年度）、完全給食導入、預かり保育等、時代や社会のニーズに合わせて幼稚園教育に取り組んできた。そのことは、令和元年度においても変わらない。各種研修会も、町全体の幼稚園教育の充実を心掛けているのは、喜ばしい。今後も小学校と連携したりしながら、より充実した研修の開催をお願いしたい。

教育相談事業については、様々な要因から不登校になっていた子どもたちが、26 名登校できるようになったという成果が出ている。また、この他に、90 名の児童生徒への指導が行われている。十分ではないが、難しい取り組みをしていることは、評価できる。しかし、相談件数 3,524 件のことを考慮すると、取組が十分であるかどうか心配な面がある。教育相談員等の配置人数 11 名で対応は大丈夫かどうか、場合によっては増員等のことも検討していただきたい。

3. 生涯学習文化課関係事業について

放課後子ども教室推進事業については、子どもを見守る教育活動サポーターを 45 名委嘱し、16 名の方が子どもたちと小学校の余裕教室を利用して交流している。子どもたちは、地域のサポーターの方々に見守られながら、様々な体験や交流を行い、自らの学びを豊かなものにしていく。と同時に、その活動の場は、心地よい空間ともなっている。体験の質を考え、いろいろな交流を工夫していけば、学校・教室以外にもう一つ別な、しかも自由な解放された学びの場となることが期待できる。

県外等派遣事業については、小中学生及び青年会等が、県外で開催される運動競技や文化活動に参加するに際し、申請を審査して派遣費用を支援するというものであるが、コロナ禍の下大会等の中止があり、申請件数が伸びず、執行率が 79.7%にとどまった。しかし、このことはやむを得ないことであり、この事業の妥当性を否定するものではないと考える。また、派遣人数 122 人のうち、「広い視野をもつこと」、「競技に対する姿勢」が「とても向上した」との回答が、80%を超えていることも注目される。このことは、派遣される子どもたちや若者の経済的負担を軽くするだけでなく、競技力の向上や人間形成に資する効果が認められるものとして、この事業は評価できるものである。

子ども平和学習交流事業については、コロナのために、広島県福山市のホロコースト記念館とリモートでつなげ、館長の講話と館内の案内、意見交換を行う形で実行に移された。また、徳島県牟岐中（むぎちゅう）とのリモート授業で「沖縄戦から見える平和への思い」と題して南風原と沖縄戦の実相を紹介した。この授業は、町の平和学習に対する取り組みの成果を反映したものである。コロナ禍であっても創意工夫で平和学習交流事業を実施したことは、熱意とこの事業の大切さを教えてくれているものとして評価できる。首里城地下の陸軍壕との係わりなども視野に入れてこの事業の推進を期待したい。

